



今井 高樹

北アフリカ・スーダン南部の中心都市ジュバでは最近、黄色のTシャツ姿をよく見かける。「格好いいだろう。携帯電話の会社にももらったんだ」



携帯電話 驚異の普及

と語る若者たち。新しく進出した通信会社が大量のヤンペーンを繰り広げているのだ。

当地でも携帯電話の普及は目覚ましい。難民キャンプから戻って私たちの職業訓練施設で学ぶ研

修生たちも、みな持っている。

「一日一食しか食うカネがない」と言う彼らにとって、最低五スーダン・ポンド（二百五十円）の通話用プリペイドカードだけでも少くない出費のは

携帯電話で友人と話すジュバの若者たち（筆者撮影）

ずだが、それほどまでに携帯電話の誘惑は強い。外国資本の通信会社にとって、投資回収は容易だろう。

一方で、内戦が終結して三年が経過したものの、基本的な社会インフラの整備は立ち遅れたまままだ。家々には電気も水道もなく、多くの人々がナイル川の生水を飲み、今年もコレラが流行した。

そんなジュバの町で、携帯電話用の電波塔だけが急ピッチで建設されていく光景は異様だ。

◇
いまい・たかき 北大卒業後、会社員を経て昨年5月から日本国際ボランティアセンター職員としてスーダン南部ジュバに駐在。45歳。